

福岡の“いま”を伝える地域経済情報誌

8 2025
月号

ふくおか経済

FUKUKEI
vol.444

特集

福岡市新任幹部職員
廃校の活用

新任トップに聞く
山本三男 福岡食肉市場社長

特別インタビュー
CDIB Capital Innovation Advisors

ZOOM UP
アイテックシステム

PR企画

特集2025
北九州の元気企業

Bizサポ
2025
Your business to be supported by this guidebook.

表紙の人

山口博章

大石産業社長

次の100年の「未来を包む」新グループビジョン策定

特集
Feature Article

九州電力、TOTOなど約20社でトップ交代
地場主要企業役員人事2025

次の100年の「未来を包む」新グループ

設備投資80億円、海外輸出事業を

山口 博章 大石産業社長



大石産業本社(北九州市八幡東区桃園2丁目)

「多額の運転資金が必要にならなければならない。だが、これらの事業を立ち上げる中で当然ながら、多くの運転資金が必要にならなければならない。だが、これらの事業を立ち上げる中で当然ながら、多くの運転資金が必要にならなければならない。」

国内支店・営業所は国内に1

ビジョン策定

“第5の柱”へ



プロフィール やまぐち・ひろあき

北九州市小倉北区出身。1958年5月27日生まれ67歳。福岡大学法学部法律学科卒。82年3月大石産業入社。2014年4月執行役員フィルム事業部長、17年6月取締役執行役員事業本部東京支店長、20年6月常務取締役紙袋・フィルム事業統括、22年4月常務取締役紙袋事業部長、23年1月から現職。趣味はスポーツ、ウォーキング、読書

包装資材専門化で独自ポットフォリオ確立

4事業が補完し合い上場以来赤字・減配なし

—今年4月に創業100周年を迎えられました。これまでの歩みを教えてください。

山口 当社の歴史は1925年、創業者である大石伊太郎が佐賀県三養基郡から北九州・八幡に移り「大石商店」を創業したことに始まります。当時、化学肥料がまだなかった時代に、魚粕などの肥料を入れた麻袋の

販売をスタートしました。やがて使用済みの麻袋を解き、製紙原料として再生する古繊維事業へ展開し、大型クラフト紙袋の製造などに着手しました。また、伊太郎氏は事業を興すだけでなく、八幡商工会議所の会頭を務めるなど、地域の発展にも深く貢献しました。

しかし1952年、日航定期旅客機「もく星号」の事故

により搭乗していた創業者は亡くなり、当時学生だった大石正巳が2代目に就きました。正巳氏は現在の事業の骨子となる古紙をリサイクルして作る立体緩衝材

「パルプモールド事業」をはじめ、「段ボール事業」「フィルム事業」などを作り上げた今、大石産業の骨格を作った方です。

ただ、これらの事業を立ち上げる中で当然ながら、多くの運転資金が必要にならなければならない。だが、これらの事業を立ち上げる中で当然ながら、多くの運転資金が必要にならなければならない。

ります。高度経済成長期に同期し、当社も成長していましたが、資金的に苦しい時代があったと聞きます。その時に当社の資金需要を支えてくれたのが、今もお取引のある銀行です。今の当社があるのは銀行の手厚いご支援があったからこそであり、大変感謝しています。

—現在の事業の形態になったのはいつ頃からですか。

山口 これまで市場に先駆けてさまざまな事業に取り組み、トヨタ系列のディーラーやコンピュータの販売代理店なども手掛けていました。本格的に産業用包装資材に専念し始めたのは20数年前からで、現在はパルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋の4つを主力事業として展開しています。この4事業部を有するメーカーは国内で当社のみです。不思議と全事業部がそろって好調・不調な時はなく、相互に補完し合う関係性なので業績は安定しており絶妙なポットフォリオと自負しています。

1拠点、生産工場は5拠点を構えています。
 —上場以来、黒字経営を続けて来られました。
山口 はい。1980年に福岡証券取引所に株式上場し、2022年には東京証券取引所第2部（現スタンダード市場）に上場しました。1947年の会社設立以来赤字はなく、株式市場から現在まで減配・無配はありません。



自由自在な立体構造が可能なパルプモールド

—大きな節目を迎えられた現在の心境はいかがですか。
山口 創業家からプロパーに転換したのは2015年に就任した6代目の大久保則夫社長からで、私は9代目になります。長い歴史を紡いできた企業の記念すべき100周年を、私の代で迎えられるのは奇跡に近いことだと思っています。1年ほど前から緊張感を持って過ごしていました。いざ迎えると、より責任感を背中に感じるようになりました。4月1日から全国の拠点を巡回し、社員と100周年の思いと喜びを分かち合いました。海外拠点やお世話になった取引先も含め、約1カ月半かけて回りました。



ワンタッチで開封できる重包装紙袋「一気開封袋(PV+)」

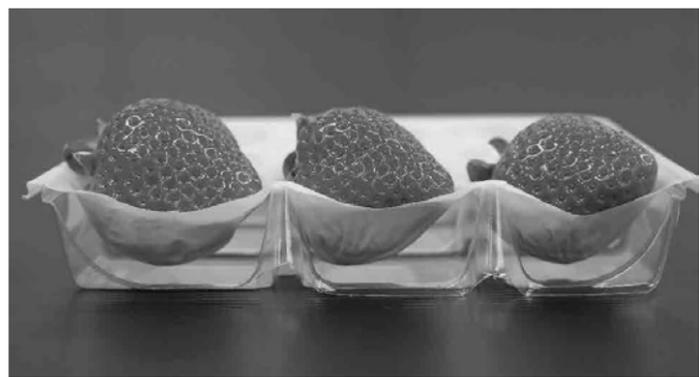
また、こうして大きな節目を迎えることができたのも、ひとえに取引先様、株主様、そして日々尽力してくれている従業員とその家族、地域社会といった多くのステークホルダーのご支援の賜物です。パーティーなどの周年事業は予定していませんが、この感謝の気持ちを表すために、

次の100年を描く新グループビジョン始動 設備投資に80億円を投入

—100周年に合わせて新グループビジョンを策定されました。内容についてお聞かせください。
山口 元の「包む」という企業理念をベースにしつつ、これからの100年を作るため、若い人たちにも意見をもらって「パーパス（存在意義）・ビジョン（あるべき姿）・バリュー（価値基準）」を明確にし、わかりやすく浸透しやすい形に策定しました。
 パーパスは、製品にとどまらず、社会の未来を包むことで社会に必要とされる存在であり続けるという願いを込めて「未来を包む—Inclusion for Future—」としました。ビジョンは「循環型社会に最適解を提供する」「バリューは創業以来続く当社が一番良いところを直球で表した」「誠実、挑戦、協創」に決めました。
 —長期ビジョン「New Challenge Vision 2035」では売上高300億円の達成を目指しています。
山口 ええ、「2035年にありたい将来像」を各事業に設定しており、目標達成のために何をすべきかを明確にしています。パルプモールド、段ボールな

どの緩衝機能材事業では、業務改革・効率化を進め安定的な収益基盤構築を目指します。同時に、新技術を活用した製品や当社独自の製品の開発を強化し、さらなる受注拡大を図ります。

包装機能材事業は、フィルム事業の成長、グループ内の国内外拠点の連携による最適な生産・販売体制を構築し、重包装袋事業を上位メーカーとしての地位確立を目指します。また、キャストフィルムの強化、電材向け



イチゴの海外輸出を可能にした特許製品の「ゆりかご」。浮かせることで衝撃から守る

フィルムなどの開発で新市場開拓に取り組みます。どの事業にも欠かせないのは新市場獲得に向けた新製品の開発です。
 —今年度から3カ年の中期経営計画もスタートされました。
山口 長期ビジョン達成につながる今後10年のうち、成長の仕組み作りを担う重要な最初の3カ年として策定しました。28年3月期で売上高250億円、経常利益は15億円を目指します。特に重点を置いているのは、設備投資です。ここは惜しむことなく、3年間で80億円

の設備投資を実施する予定です。
 パルプモールドでは生産能力を強化、SDGsに沿った新製品開発を推進し、業界トップの地位を維持拡大することを基本方針とし、需要の高い、省エネを実現する環境配慮型の新製品の開発や、業務改革での効率化に向けて取り組めます。
 また、近年注目度が高い特許製品「ゆりかご」は、衝撃に弱いイチゴなどの果物をフィルムで浮かしながら運ぶ独自の資

材で、海外輸出で活躍しています。最近ではシャインマスカット、モモ、ピワ、イチジクなどにも使用されており、益々の販路拡大が見込まれる製品です。いずれは、これを単独事業部として独立させたいと考えています。
 —環境・社会・ガバナンスの観点から経営方針を定めています。
山口 循環型ビジネスの展開を軸に、企業活動を通じた持続可能な社会の実現と企業価値の向上を図ります。これまで以上に人的資本への投資をしていくつもりです。
 —具体的にどのような施策がありますか。
山口 先進技術の発展で省人化が進む中でも、いまだに人の手に頼らなくてはならない部分は多いです。当社の定年年齢は22年に65歳まで延長し、23年4月から、役職定年を迎える62歳の社員を対象にした「シニアエグゼクティブ」制度を導入しました。65歳の定年までの3年間、培ってきた知識や技術を若手に伝承する仕組みです。

定年後の再雇用も含め、定年後もサポートする体制を整えることでモチベーションの維持につなげています。
 加えて、入社5年目までの若手、中間管理職、管理職の階級ごとの研修なども手厚くしてい



26年4月に吸収合併するシステム子会社の株アクシス

取締役監査等委員 (常勤) 宮地 郁夫

1963年1月8日生まれ (62歳)
山口県出身

1985年 4月 関西日本銀行 (現 関西日本シティ銀行) 豊前支店長
2003年 6月 三萩野支店副支店長
2005年 2月 城野支店長
2007年 5月 営業推進部副部長
2010年10月 大分支店長
2012年 1月 監査部長
2014年 1月 大石産業 監査役
2015年 6月 取締役 監査等委員
2018年 6月 同 段ボール副事業部長
2021年 6月 同 管理部管掌
2022年 4月 同 監査等委員 (常勤) (現在に至る)
2022年 6月

取締役監査等委員 竹尾 祐幸

1958年9月19日生まれ (66歳)

1983年 4月 福岡相互銀行 (福岡シティ銀行) (現 関西日本シティ銀行) 入行
2011年12月 執行役員総務部長
2013年 4月 常務執行役員総務部長
2013年 5月 同本店営業部長兼福岡支店長
2016年 6月 取締役常務執行役員
2016年10月 関西日本フィナンシャルホールディングス取締役執行役員
2018年 6月 執行役員
2020年 4月 関西日本シティ銀行取締役常務執行役員北九州・山口代表
2020年 6月 取締役専務執行役員北九州・山口代表
2021年 6月 代表取締役副頭取 (現在に至る)
2021年 6月 大石産業取締役監査等委員 (現在に至る)
2024年 6月 関西日本フィナンシャルホールディングス取締役執行役員監査部担当 (現在に至る)

取締役監査等委員 福地 昌能

1954年9月15日生まれ (70歳)

1978年10月 監査法人中央会計事務所入社
1982年 3月 公認会計士開業登録
1992年 8月 中央監査法人社員就任
1995年 7月 福地公認会計士事務所設立 (現在に至る)
2015年 6月 当社監査役
2018年 6月 当社取締役監査等委員 (現在に至る)

取締役監査等委員 池田 早織

1983年6月8日生まれ (42歳)

2010年12月 福岡県弁護士会登録
2011年 1月 徳永・松崎・斉藤法律事務所入所
2021年 4月 徳永・松崎・斉藤法律事務所パートナー弁護士 (現在に至る)
2024年 6月 当社取締役監査等委員 (現在に至る)

大石産業(株)

〒805-0068 北九州市八幡東区桃園 2-7-1
TEL 093-661-6511 (FAX) 093-661-1641
設立 1947(昭和22)年2月 (創業) 1925(大正14)年4月
資本金 4億6,640万円
銀行 西日本シティ銀行 福岡支店 北九州八幡 他
(社)山口博章 (取)豊田真佐喜 大谷洋文 宮竹幸喜 輪竹英章
(監)宮地郁夫 (非取監)竹尾祐幸 福地昌能 池田早織
事業 産業用包装資材の製造・販売
仕入先 日本紙パルプ商事 大王製紙 新ケミカル商事 全農
販売先 全農 シービー化成 ニッポン 東ソー
取扱構成先 パルプモールド34% フィルム26% 重包装袋15% 段ボール18% 成型品7%
(営業所)東京 大阪 福岡 熊本 長崎 大分 北海道 青森 茨城
(工場)小倉 直方 鞍手 八戸 茨城
関連会社 (株)アクシス<情報システム> コア・ボックス<マレーシア>
エンコア・ラミネート<マレーシア> 柳沢製袋機 フュージョンズ・ト
レーディング・マレーシア<マレーシア>

業 績	売上高(千円)	経常利益(千円)	配当(%)	従業員
2023年3月	21,788,249	1,398,375	1.5	545
2024年3月	21,964,504	1,347,578	1.5	579
2025年3月	23,485,606	1,130,697	2.2	582

役員一覧

代表取締役社長 山口 博章

1958年5月27日生まれ (67歳)
福岡県出身

1982年 3月 大石産業入社
2006年 4月 パルプモールド事業部西日本営業部長
2012年 4月 同東日本営業部長
2014年 4月 執行役員フィルム事業部長
2016年 4月 同事業本部東京支店長
2017年 6月 取締役執行役員事業本部東京支店長
2018年 4月 同紙袋・フィルム事業統括
2020年 6月 常務取締役紙袋・フィルム事業統括
2021年 4月 同紙袋事業部長兼フィルム事業管掌
2022年 4月 同紙袋事業部長
2023年 1月 代表取締役社長兼紙袋事業部長
2023年 4月 代表取締役社長
2024年 4月 代表取締役社長兼戦略推進事業部管掌
2024年 6月 代表取締役社長 包装機能材事業本部長 戦略推進事業部管掌
2025年 4月 代表取締役社長 (現在に至る)

取締役 豊田 真佐喜

1961年10月28日生まれ (63歳)
福岡県出身

1985年 4月 大石産業入社
2014年 4月 フィルム事業部営業部長
2016年 4月 関西支店営業部長
2017年 4月 関西支店長兼営業部長
2018年 4月 関西支店長
2019年 6月 執行役員東京支店長
2021年 4月 同フィルム事業部長
2022年 4月 上席執行役員フィルム事業部長
2022年 6月 取締役フィルム事業部長 (現在に至る)

取締役 大谷 洋文

1964年5月5日生まれ (61歳)
福岡県出身

1987年 4月 大石産業入社
2010年 4月 管理部企画グループ部長
2016年 4月 事業企画部長
2017年10月 経営企画室長
2018年 7月 執行役員経営企画室長
2019年11月 同管理部長
2022年 4月 上席執行役員管理部長
2022年 6月 取締役管理部長
2023年 4月 同管理本部長
2024年 4月 同管理本部長 経営企画室管掌
2025年 4月 同管理部長 (現在に至る)

取締役 宮竹 幸喜

1962年11月3日生まれ (62歳)
福岡県出身

1988年 3月 大石産業入社
2010年 4月 フィルム事業部製造部長兼九州工場長
2011年 4月 フィルム事業部製造部長兼関東工場長
2016年 4月 技術開発部長
2018年 7月 執行役員技術開発部長
2019年 4月 同生産技術部長
2022年 4月 上席執行役員フィルム事業部副事業部長
2025年 4月 執行役員生産技術部長
2025年 6月 取締役生産技術部長 (現在に至る)

取締役 輪竹 英章

1965年3月11日生まれ (60歳)
福岡県出身

1987年 4月 大石産業入社
2014年 4月 紙袋事業部国内営業部長
2016年 4月 東京支店第二営業部長
2018年 4月 東京支店長
2019年 6月 執行役員 柳沢製袋機代表取締役社長
2023年 4月 上席執行役員紙袋事業部長兼営業部長
2024年 4月 同経営企画室長
2025年 4月 執行役員経営企画室長
2025年 6月 取締役経営企画室長 (現在に至る)



新卒と前期・今期中途入社社員を対象とした今年4月の入社式

「一人手不足などの問題もあり、業務改革が急がれます。」
山口 生産性の向上などス
ピード感を持って進めるため、「IT・DX戦略準備室」を社内に設置しました。世界的な競争が激化する中、製造現場だけでなく、販売、管理全ての部門

「2025年3月期の連結決算は増収減益でした。どのように評価されていますか。」
山口 売上高が前期比6.9%増の23.4億8500万円と増収を確保することができました。これは、国内外での販売価格の見直し効果や、海外向け重包装袋製品の販売数量が回復したこと、そして新たな需要を開拓した事務機器用のパルプモールドトレーやキャストフィルムの拡販が実を結んだ結果です。一方で、利益面では課題が残る結果となりました。将来の成

「事業分野ごとの売り上げ構成は。」
山口 事業別に見ますと、手応えを感じているのが「包装機能材事業」です。売上高は前期比10%増、セグメント利益も8.3%増と好調で、特に海外の重包装袋部門が業績をけん引

「古紙を使うなど、環境負荷の少ない事業構造は今の時代にも合っていると云えますね。」
山口 はい。国内トップシェアを誇るパルプモールドは、新聞、段ボール、パルプ、白物古紙などを日本伝統の紙抄きと同

23億円投じ茨城工場に新成型機導入
パルプモールドに脱プラの追い風

「今年は何人採用されましたか。」
山口 大学卒は9人、中途採用も合わせると約30人です。来

「今年は何人採用されましたか。」
山口 大学卒は9人、中途採用も合わせると約30人です。来

「今年は何人採用されましたか。」
山口 大学卒は9人、中途採用も合わせると約30人です。来



1990年にマレーシアに設立した日系企業初の海外大型クラフト重包装袋生産会社CORE PAX (M) SDN. BHD. (通称CPM)



2013年、三国紙工(株)との合併によりマレーシアに設立したラミネート製品の製造販売会社ENCORE LAMI SDN. BHD. (通称ECL)



FTM発足メンバーとマレーシアペトロナスツインタワーを望む

TRADING MALAYSIA SDN. BHD. (通称FTM) を設立しました。私が目指すのは、品物を選んでお届けし、その品物の評価を聞いて生産者や当社の仕事に生かすことです。エンドユーザーの意見を商品に反映し、より安心・安全で、より良い品物をお客さまにお届けする。そういう循環型のビジネスを構築しています。富裕層向けに有名な農産物や工業品などは、すでに輸出されています。しかし、日

や果物トレーなどで活躍しています。大手ハンバーガーチェーンにも立体構造を生かした飲料キャリアを独占提供しています。

— 昨年には日本パッケージングコンテストで新製品「パラミル」がジャパンスター賞を受賞しています。

山口 当社は2015年の「ゆりかご」、铸铁管用キャップから10年連続で入賞しています。「パラミル」はパルプモールドの容器にフィルムをラミネーションした製品で、プラスチックが持つ耐水・耐油性などの機能を併せ持っています。また、ラミネート部分を剥がすことでパルプモールドと同様に古紙リサイクルすることが可能な画期的な製品です。

— 需要に応じた設備投資の予定は。

山口 脱プラ・減プラの流れを受けて、23億4000万円を投じて茨城県北茨城市のパルプモールド工場に新たな成型機を導入します。稼働は来年6月

本各地には、高品質にもかかわらず、輸出されていない逸品がたくさんあります。そういう産地には多くの若いやる気のある人たちがいるものの、さまざまに要因により、なかなか海外に輸出することができません。そういう人たちに光を当てたいというのがこのビジネスのもう一つの狙いです。当社は包装資材なら何でもそろえます。パルプモールド、段ボール、フィルム、樹脂袋、紙袋、包装する機械も紹介できますし、仕入先とのつながりも多岐にわたっています。「当社に頼めばコーデイナーも含めて全てやってくれる」と言

われるまでに成長させたいです。この新しいビジネスを5つ目の事業として発展させたいと考えています。

— マレーシア以外の国への展開計画は。

山口 やはり海外、特にアジア地域は非常に可能性の大きい市場だと思っています。国内で3000円の商品が海外では1万円で売れたりしますからね。タイ、カンボジア、インドネシアなどへの意欲はありますが、まずは30年のノウハウを持って挑んだマレーシアでの新事業をいかに軌道に乗せられるにかかっていますね。

包装資材とネットワーク武器に新事業構築 30年の海外経験を生かし農産物流通へ

— 海外での事業戦略をお聞かせください。

山口 1990年、当時同業

のジョホール州に紙袋の工場CPMを構えました。約30年間で培ったノウハウやネットワークを活用できないかと考え、昨年10月、クアラルンプールに日本産農産物の輸入を手掛ける連結子会社「FUSIONS TRADING MALAYSIA SDN. BHD. (通称FTM) を設立しました。私が目指すのは、品物を選んでお届けし、その品物の評価を聞いて生産者や当社の仕事に生かすことです。エンドユーザーの意見を商品に反映し、より安心・安全で、より良い品物をお客さまにお届けする。そういう循環型のビジネスを構築しています。富裕層向けに有名な農産物や工業品などは、すでに輸出されています。しかし、日



2024年日本パッケージングコンテストでジャパンスター賞を受賞した新製品「パラミル」

様の製法でリサイクルした製品です。取引先と連携し、使用後の製品を回収してパルプモールドに再生する取り組みもしています。

また、環境優位性だけでなく、複雑な三次元立体構造に成型することができ、緩衝性や通気性にも優れているため、卵パック

— 昨年には日本パッケージングコンテストで新製品「パラミル」がジャパンスター賞を受賞しています。

山口 当社は2015年の「ゆりかご」、铸铁管用キャップから10年連続で入賞しています。「パラミル」はパルプモールドの容器にフィルムをラミネーションした製品で、プラスチックが持つ耐水・耐油性などの機能を併せ持っています。また、ラミネート部分を剥がすことでパルプモールドと同様に古紙リサイクルすることが可能な画期的な製品です。

— 需要に応じた設備投資の予定は。

山口 脱プラ・減プラの流れを受けて、23億4000万円を投じて茨城県北茨城市のパルプモールド工場に新たな成型機を導入します。稼働は来年6月

を指しています。

— フィルムも国内トップクラスの高シェア事業です。

山口 ポリスチレンフィルムは寿司や刺身のトレー、カップ麺容器といった食品容器ラミネート分野で長年ご愛顧いただいています。

そのほか透明性やカットしやすい特性を生かし封筒窓貼り用フィルムとしても活躍しています。樹脂を「Tダイ」と呼ばれる金型から押し出して整膜する



26年6月に23億4000万円を投じて成型機を導入するパルプモールド茨城工場(茨城県北茨城市中郷町)

を指しています。

— フィルムも国内トップクラスの高シェア事業です。

山口 ポリスチレンフィルムは寿司や刺身のトレー、カップ麺容器といった食品容器ラミネート分野で長年ご愛顧いただいています。

そのほか透明性やカットしやすい特性を生かし封筒窓貼り用フィルムとしても活躍しています。樹脂を「Tダイ」と呼ばれる金型から押し出して整膜する

キャストフィルムは、最近新設備を導入しましたが、多彩な凹凸を施すエンボス加工も可能で、食品包装、オムツ、絆創膏などの衛生材料、電子材料、産業用資材として多様な分野で利用されています。

— 一方で、重包装袋事業や段ボール事業は競争が激化していますね。

山口 どちらの事業も利益は限定的ですが、古くからの基盤事業で思い入れも強いです。何より「人を切らない」という企業方針のもと、雇用を守り技術をつないでいくために腰を据えて継続していきます。



トレーとフィルムを熱で貼り付ける食品容器のラミネート分野で全国に流通している

「神童」と呼ばれた4番サードの野球少年

兄は「唯一無二で尊敬する存在」

「プロフィールを伺います。北九州市小倉北区のご出身ですね。」

山口 はい。父、母、兄との4人家族でした。幼い頃に両親と出かけたこと、遊んだこと、叱られたこと、褒められたこと、その全てを鮮明に覚えています。普段の日常は忘れるものですが、家族との思い出は、きつとこれからも忘れることはないと思います。

4歳年上の兄との思い出も数え切れないほどあり、ずっと



尊敬する4歳上の兄（奥）と社長就任祝いで食事へ

その背中を見て育ってきました。今後も追いつくことができない偉大な兄ですが、今でも2人だけで食事することがあります。私の社長就任時には、ふぐ料理を食べに行きました。あらためて言葉で励まし合うことはないですが、同じ時間を過ごして、美味しいお酒を酌み交わすことに価値があると感じています。両親は育ててもらった恩がありますから当然尊敬してはいますが、兄という存在は唯一無二で尊敬しています。

「どのようなお子さ

山口 運動が得意で、子どもの頃は「神童」と呼ばれていましたよ（笑）。当時は長嶋茂雄さんが大活躍されていた野球黄金時代でしたから、私も憧れて中学生まで野球少年でした。センスがあったのか4

番サードを任せてもらい、それが誇らしかったです。

しかし、1974年に西ドイツで開催されたFIFAワールドカップの西ドイツ対オランダの試合をテレビで見てサッカーに目覚め、小倉西高校に進学しサッカー部に



1982年、新入社員（当時22歳）の山口社長

入部しました。ポジションはフォワードでした。スポーツは得意でいろいろやりましたがどれもチームでやるものでしたね。

山口 大学は福岡大学法学部法律学科に進みました。

山口 大学時代は部活には入らず、スポーツは遊び程度でした。アルバイトもやりましたし、人生経験を積んだ時期ですね。

就職活動ではメーカー志望だったのですか。

トマトトレイ 拡販で売り上げ20倍の快挙

人生の先輩は尊敬する3人の上司

入社後の思い出深いエピソードは。

山口 入社当時はインターネットもなく、10年ほどいた

東京時代はスピード感を持って仕事をしてきたなと思います。九州に戻ってきたときはかなり情報量のギャップを感じま

業績表彰



2001年、トマトトレイの拡販で売り上げ20倍の快挙を達成した

したね。その後熊本に異動した際、全国にまたがるトマトトレイ拡販チームにチームリーダーとして参加しました。トマト産地の自動詰め選果機導入に併せて拡販を行い、50万枚ほどだった売り上げを1000万枚まで伸ばすことができました。ありがたいことに表彰もしていただきまして、とても思い出深いです。

また、なにより熊本時代には人と人とのつながりの大切さについて学びました。東京にいたときの武器は、情報量とスピードでしたが、この3年間で「営業とは」「人間とは」ということを学びました。特に熊本、鹿児島での出会いはかなり影響を受けましたね。その後また関東に行き、東北でもさまざまな交流をしましたが、どの時代が抜けても今の考え方にはならなかったです。事業部や土地をたくさん経験したことが、私の強みだと自負しています。

若いうちにローテーションしているいろいろな経験を積むことで個人が強くなり、結果チームが強くなるわけですから、これからの大石産業を担う社員にもたくさん経験を積んでほしいと思っています。



師匠のような存在の久保保夫6代目社長と

山口 個人的に社内でお世話になったのは大久保さん（6代目社長）、吉田さん（元専務）、

三嶋さん（元専務）の3人です。

が、特に印象に残っている言葉が「念忘解」です。考え念じ続ければ、ふと忘れた時に回答が出てくるという意味を持ちます。また、「だけど」は後ろ向きで言い訳の言葉、「だから」を使う言葉であり、「だから」を使うように強くご指導を受けました。「だから」を使いたしてから人生の流れが変わったように思います。とにかく頭の回転が良くて多くのご指導を受けました。



2006年、尊敬する先輩との写真。（前列左から）吉田さん、三嶋さん、山口社長

大変素晴らしい、親分肌で人情派の方でした。そして何よりも太っ腹な方で、人生の生き様を学びました。

この御三方から学んだことは、今の私のサラリーマン人生に大きく影響しており、本当に感謝しています。

社長就任初年度の誕生日にホールインワン達成

愛読書は「男の作法」、「坂の上の雲」

—ご家族の構成は。

山口 妻の瑞恵と娘2人です。子どもたちが小さいときは転勤先で一家で引っ越していましたが、50代ごろは単身赴任が多かったです。

—全国に拠点があるといういろいろな土地の人と関わりが多かったです。

山口 各県を回ったおかげでその土地の特色がわかるようになります。例えば熊本は、最初は外からの人間として見られますが、一度信頼されれば絶対に裏切らない人間関係を構築できます。博多もやはり地元主義が強い地域ですね。反面、北九州は外からの文化を受け入れる懐の深さを持っています。

面白いのは青森です。八戸に工場があり現地の人と話す機会

がありますが、彼らは非常に無口なんです。子どもの頃から両親に「男たるもの寡黙であれ」と育てられているようで、余計なことを喋らないことが美德とされているんですね。

—出張時の楽しみは何でしたか。

山口 温泉はよく行きました。特に熊本の菊池温泉や平山温泉はお気に入りです。当時は秘境で人が少なかったのですが、今はいつ行っても混んでいて足が遠のいてしまっています。また、拠点付近の城巡りもよく行きました。特に印象的だったのは備中松山城と安土城跡です。47都道府県を仕事で回りましたが、それぞれの場所でいろいろな人、場所との出会いがあり、私にとって人生の宝物となっています。

—現在の趣味は。

山口 体を動かすことはなんでも好きです。最近ではウォーキングやゴルフが多いですね。会社で若松のクラブに入っており、ベストスコアは78です。そして驚くべきことに、社長に就任した年の誕生日にホールインワンを達成しました。もう打った瞬間に「入った」と思いましたね(笑)。

また、読書も好きです。愛読書は池波正太郎の「男の作法」、司馬遼太郎の「坂の上の雲」です。坂の上の雲では、秋山好古と真之兄弟が主人公となって明治時代から日露戦争までが描かれています。真之は兄である好古を行動、軍人として、全てを慕っています。私が兄を慕う気持ちも同様ですね。



社長に就任した年の誕生日に奇跡的なホールインワン



社内でゴルフコンペを開催